

日に日に陽ざしの暖かさが増し、春の息吹がひしひしと感じられるようになりました。卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

さて、私が清瀬第三中学校に着任してこの一年間に皆さんにいくつかのメッセージを伝えてきました。人は、「学び」「変わる」そして「輝く」。中学校三年間、義務教育九年間を修了する今日、卒業生の皆さんは、どのように輝いているでしょうか。先ほど、一人一人に卒業証書を渡しました。凜とした態度で、それぞれの輝きで、成長を見届けることができました。大変うれしく思います。

君たちの義務教育九年間は、決して順風満帆ではなかったかもしれない。小学校五年生三学期末から新型コロナウイルスの影響で、学校休校、制限の多い学校生活で多くの学校行事、宿泊行事が縮小、中止となり、本来の学びを味わうことができなかったかもしれません。

だからこそ、この一年間に、「学ぶ」ことの疑問から、「なぜ学ぶのか」、どうして「考える力」が必要なのか。幾度なく呼び掛けてきました。AIとの共存社会がやってくる中で、私たち人間にしかできない「考える力」に注目し、高めていく必要があること。その「考える力」とは、「課題や問題点となっていることを探し、課題を解決するための方法を選び、価値のある新しいものを生み出していく力」のことです。いわゆる「思考力・判断力・表現力」です。そのための基礎的基本的な知識技能を身に付け、学び合いの中で考える力、生きる力を育むことができます。

新型コロナウイルスが五類になり、四年ぶりの制限のない運動会。多くの保護者の方、来賓の方が見守る中で、君たちは必死になって走り、応援し、踊り、そして、伝統のハカの舞。私にとっては、とても新鮮で、そして、とてつもないパワーを感じた一日でした。また、合唱コンクールでは、直前のリハーサルで、不安がよぎる歌声でしたね。当日、所沢ミューズ大ホールで三年生の本番直前での全体合唱リハーサルでは、大ホールに響くハーモニーに驚き、感激し、君たちの底力、本気を感じさせてくれた時間でした。学んだことを互いに高め合い、創作・表現し、人に感動を与えることができたことは素晴らしいことです。それはまさに「思考力・判断力・表現力」であり「考える力」「なぜ学ぶのか」の答えの一つなのかもしれません。ぜひ、その力を違う場面でも活用し、「考える力」をさらに育んでほしいと思います。

そして、修学旅行。この四年間でできなかった体験的な活動、宿泊行事を、できる限り多くの体験が味わえる石川県で、濃密なスケジュールの中、歴史、文化に触れ、素晴らしい体験活動を経験することができました。特に、能登での民泊では、普段味わえな

い体験や能登の方との触れ合い、愛情、おもてなしを感じ、感謝したことと思います。しかし、令和六年一月一日、能登半島地震では、多くの尊い命が奪われ、今なお被災された方は数多くいます。心より哀悼の意を表し、お見舞い申し上げたいと思います。卒業生の皆さんにとって、3年間の集大成であった修学旅行の思い出の地となる金沢市、能登半島でした。3学期の始業式では、皆さんに今何ができるのか、何をすれば良いのか考えてもらいました。生徒会を中心に義援金募金活動を行い、卒業生全員から能登の方へのメッセージ送り、私も読ませてもらいました。心のこもったメッセージが綴られていました。きつと能登の方の心に届いていくことでしょう。

ここで改めて、卒業生の皆さんに考えてもらいます。

これから予測できない社会、未来を切り拓いていく君たちに、改めて自分自身について考えてほしいと思います。

それは、何よりも、自分を大切にしたいということなのです。

大切にすることとは、自分に甘くなること、目先の楽を選ぶこと、面倒くさいから、気分がのらないから、やる気がでないからと現実逃避をすることではありません。言うまでもなく自分の人生、命だからだと軽んじることは、あってはならないことです。幸せに生きたくても生きれず、家族を失った人の悲しみを考えたら、あまりにも悲しい選択であり、許されないことです。

自分の可能性を信じ、諦めずに挑戦してほしいのです。自分には、無理だと決めつけるのではなく、四月からは新たなスタートラインで、これからの困難に立ち向かい、時には弱音を吐き、家族や友達から助けてもらいながらも、人に流される、人のせいにすることなく、自分自身のために最後まで力を注いでください。そこで、はじめて未来を切り拓く力を身に付けることができますはずなのです。

今なお、被災して明日の生きる道が見えない人が、最後まで諦めない心で生きている人がいるということを忘れずに、感謝の心をもって、自分の道を歩んでいってください。

卒業生の皆さんに、私から、最後にメッセージとして次の詩を贈ります。田舞徳太郎（たまい とくたろう）さんの「挑戦」という詩です。

「挑戦」

この世には二つに一つの選択しかない

あきらめて生きるか

挑戦し続けて生きるか

あきらめて生きている人があまりにも多い

自分を妥協し自分を偽り

他人のせいにし言い訳を続け

あきらめ・なんと安易な言葉だろう

挑戦こそが人生だ

困難にあえて挑戦し困難を乗り越え

自分らしく生きる

挑戦するから命が燃える

挑戦するから魂が生きる

挑戦こそが新しい道を切り開く

皆さんは、保護者の方々、地域の方々、先生方や友達など、多くの方々の陰からの支えによってこの清瀬市で成長してきました。常に前を向いて歩んでいける人になってください。素晴らしい未来を君たち自身の手で切り拓き、清瀬の力、日本の力として活躍していくことを心から願っています。

保護者の皆様、これまで温かい愛情を注ぎ、育ててこられましたお子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の姿に、十五年間の子育てを振り返り、感慨もひとしおであろうと拝察いたします。

3年間にわたり、皆様にとってかけがえのないお子様をお預かりし、私ども教職員一同努力してまいりました。中には至らぬ点があり、ご不満に感じることもあったかと存じます。そうした中でも、本校の教育活動に対し、常に温かいご厚情・ご支援を賜りましたことに、この場をお借りして改めて、感謝申し上げます。ありがとうございます。

結びになりますが、本日、本校の卒業生の新たな門出に際し、清瀬市教育委員会教育長、坂田 篤（さかた あつし）様をはじめ、多くのご来賓の皆様、地域の皆様にご臨席を賜りましたことを、卒業生、保護者、教職員に代わりまして心より御礼申し上げます。また、本日、本校を巣立っていく卒業生たちは、これからの清瀬市、そして、我が国を担う大切な人材でございます。今まで以上に、皆様方の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生一人一人が、輝かしい人生を歩んで行かれることを心より祈念し、式辞といたします。

令和六年三月十九日

清瀬市立清瀬第三中学校 校長 井上 隆